

市民の生活と安全を守る



古畑 秀夫
(市民派連合)

◆雨水の被害対応について

問 地元での対応が難しいので災害対応で県・市の支援を。

答 激甚災害でないので国の支援は望めない。既存の制度での支援を県と協議し、補助事業等に対応していく。なお、保安林は県で対応する。

◆小型除雪機の貸与を

問 高齢化等により除雪できない所がある。過疎地域へ、除雪機の貸与ができないか。

答 地域でより迅速に除雪作業ができるよう現在研究している。今後、地域の実情にあった対応を検討していく。

◆介護保険制度改正の問題点

問 要支援1・2が市町村事業に移行するが利用者はこれまでのサービスは受けられるのか。また、報酬の引き下げによる経営悪化を心配する声があるがどうか。

答 来年の移行後の数年は、既存の介護保険事業者が主体になるものと想定している。松本圏域管内2市との均衡を図りながら、単価設定を行う

が、サービス低下につながらないよう事業者と十分な協議と調整を重ねていく。

◆子育て支援について

問 来年度、保育園への入園状況はどうか。

答 希望者全員の入所を決定した。第一希望以外の保育園への児童は98人となっている。

◆生活困窮者への食糧支援は

問 市の取り組み状況は。

答 生活困窮者の自立相談業務をしている生活就労支援センター「まいさぼ塩尻・東筑」で相談者の困窮状況に応じて食料を提供している。



雨水による倒木と土砂崩れ

今冬の除雪の総括



中野 重則
(清風クラブ)

◆相互除雪の実施検証結果

問 平成26年2月の大雪災害を受けて浮かび上がった課題を「除雪連絡会議」で検証した結果、路線ごとの除雪ではなく、国道・県道・市町村道の相互除雪が実施される事となっているが、本年1月の大雪に対する市の検証結果は。

答 今回の大雪に対しては、県道除雪を契約している業者が市道においても除雪を行う相互除雪が行われた。効率的な作業体系になっており、相互除雪に関する協定の有効性を十分感じている。

問 今回は排雪の手段としてロータリー除雪車が能力を発揮し、その効率性の高さが認識された事と考えるが、市として保有する考えは。

答 今回の大雪に対しては、バックホー等を利用した従来の方式に加えて、ロータリー除雪車を活用し除排雪作業を実施したところ、格段の作業効率が確認された。費用対効

果を検証し、今後研究する。

◆全国都市緑化フェアに向け

問 平成31年度に中信地方で開催が予定されている全国都市緑化フェアに対する市の対応は。

答 全国都市緑化フェアの中信地区での開催は、観光振興や交流人口の拡大等、様々な経済効果が期待されるので、本年度策定される基本構想を踏まえて検討する。



ロータリー車による除雪作業